

国際収支統計の見直しについて

我が国の国際収支統計は、国際通貨基金（IMF）が定めた国際収支マニュアル第6版（以下「第6版」）に準拠した統計に移行することを主眼として、平成26年1月取引計上分から所要の見直しを行った。主な内容は以下のとおり。

1. 主要項目の組み替え

国際収支統計において、第5版の「投資収支」と「外貨準備増減」を統合して「金融収支」とし、第5版の「その他資本収支」を「資本移転等収支」として「経常収支」及び「金融収支」と並ぶ大項目に変更した。第5版の「資本収支」の項目は廃止となった。

2. 表記方法等の変更

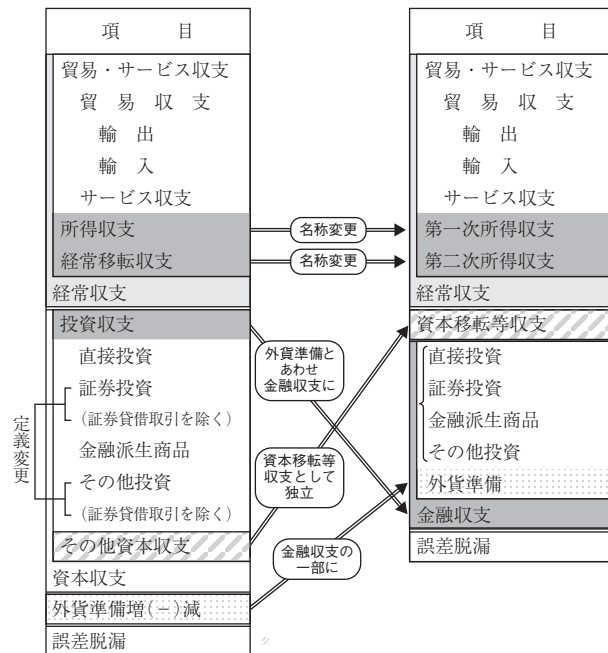
① 符号表示の変更

国際収支統計において、第5版の「投資収支」等では、資金の流出入に着目し、流入をプラス（+）、流出をマイナス（-）としていたが、新たな「金融収支」では資産・負債の増減に着目し、資産・負債の増加をプラス（+）、減少をマイナス（-）としている。この結果、負債（対内投資）側の符号は第5版と第6版で同じであるが、資産（対外投資）側の符号が逆になっている。

② 項目名の変更

国際収支統計において、第5版の「所得収支」、「経常移転収支」を各々「第一次所得収支」、「第二次所得収支」に名称変更した。

●主要項目の組み替えと名称の変更



●符号表示の変更

		投資収支 および外貨準備増減 (第5版準拠)	金融収支 (第6版準拠)
資産側 (対外投資)	資金流出 = 資産増加	(-)	(+)
	資金流入 = 資産減少	(+)	(-)
負債側 (対内投資)	資金流入 = 負債増加	(+)	(+)
	資金流出 = 負債減少	(-)	(-)

3. 計数の連続性

上記により、平成26年末の計数より第6版に準拠して作成している。また、平成25年末以前の計数は可能な範囲において当該第6版の基準により組み替えているが、一部の項目では計上基準が異なり統計の連続性がなく、従前の計数との比較ができない場合があることに留意する必要がある。